

【初年度実証成果】（農）清和農場（北海道鶴居村）

実証課題名：ドローン及びAI画像認識と自動ピンポイント農薬散布を活用した牧草地の部分除草体系の実証

経営概要：400ha（牧草圃場）うち実証面積：牧草20ha

導入技術

①ドローン(センシング)+AI画像認識(ディープラーニング)技術



②ドローン(農薬散布)



③セクションコントロールスプレーヤー



④小型除草(農薬散布)ロボット



目標

- 雑草検出・記録に係る時間を50%以上削減する
- 雑草駆除に使用する利用農薬量を10a当たり50%以上削減する
- 経営収支(利益)を10%以上向上させる

1 目標に対する達成状況

目標	慣行	実証	成果
○雑草検出・記録に係る時間を削減	12分24秒/10a	1分52秒/10a	84.9%削減 ○達成
○利用農薬量の削減	3g/10a	0.54g/10a	2.46g/10a(81.9%)削減 ○達成
○経営収支(利益)	—	—	80.4%向上 ○達成

2 導入技術の効果

雑草検出・記録時間比較

ドローンを利用した雑草検出（センシング）・記録作業では、慣行作業と比べ作業時間を84.9%削減。

慣行		実証			
徒歩+瓶への記録 (0.5haの実証区)		ドローン+AIセンシング (4haの実証区)			
		ドローン撮影(飛行)	クラウドアップロード	画像解析処理	合計処理時間
1回目	62分	1回目 16分26秒	7分25秒	51分15秒	74分58秒
		2回目 16分8秒	8分1秒	7分32秒	75分14秒
		3回目 15分48秒	7分32秒	50分52秒	74分48秒
		【平均】			74分48秒
10a換算	12分24秒			10a換算	1分52秒

農薬散布削減量・雑草割合削減量

農薬全面散布と比較し、スマート機器を利用した部分農薬散布では、散布量を81.9%削減。雑草株数についても従来から71.1%削減となった。

	目標値	
	農薬散布量(削減率)50%以上削減	雑草割合(減少率)80%以上削減
【アーজন】実証区①(雑草の少ない圃場)		
セクションコントロールスプレーヤー	91.3%減	72.1%減
小型農薬散布ロボット	96.6%減	73.7%減
農薬散布ドローン	94.3%減	78.1%減
【ハーモニー】実証区②(雑草の多い圃場)		
セクションコントロールスプレーヤー	63.5%減	81.1%減
小型農薬散布ロボット	63.9%減	50.5%減
【平均】	81.9%	71.1%

ピンポイント農薬散布時間削減

スマート農機を利用した部分散布では、人手での散布作業時間と比較し88.8%の時間削減。

慣行		実証			
人手での全面散布		セクションコントロールスプレーヤー			
		準備時間	20分42秒	小型農薬散布ロボット	10分15秒
		設定時間	35秒		5分4秒
		散布時間	5分2秒(321a)		15分45秒(58a)
合計	181分	合計	26分19秒		31分4秒
10a換算	18分6秒		49秒/10a		5分21秒/10a
【平均】	18分6秒/10a	【平均】	2分56秒/10a		2分37秒/10a

その他

ドローンにより雑草検出データが可視化されたため、雑草検出位置の第三者への通知、共有が可能となった。



雑草株位置表示図

3 今後の展望・課題

- AI画像認識技術の向上（密集株・タンポポ等の検出）において、学習用データを取得蓄積し技術向上に向け検証する。
- 小型散布ロボットの不具合やドローンの稼働時間等、実用化に向けた課題について機器メーカーと連携して検討を進める。
- 実証経営体における経営収支の改善効果を検証し、スマート農業技術の導入効果を明らかにする。

問い合わせ先

NTT コミュニケーションズ（株） 中川宏 / 中野卓 drone-agriculture-ml@ntt.com
090-3318-6442（平日 10:00～17:00）